

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立嘉瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

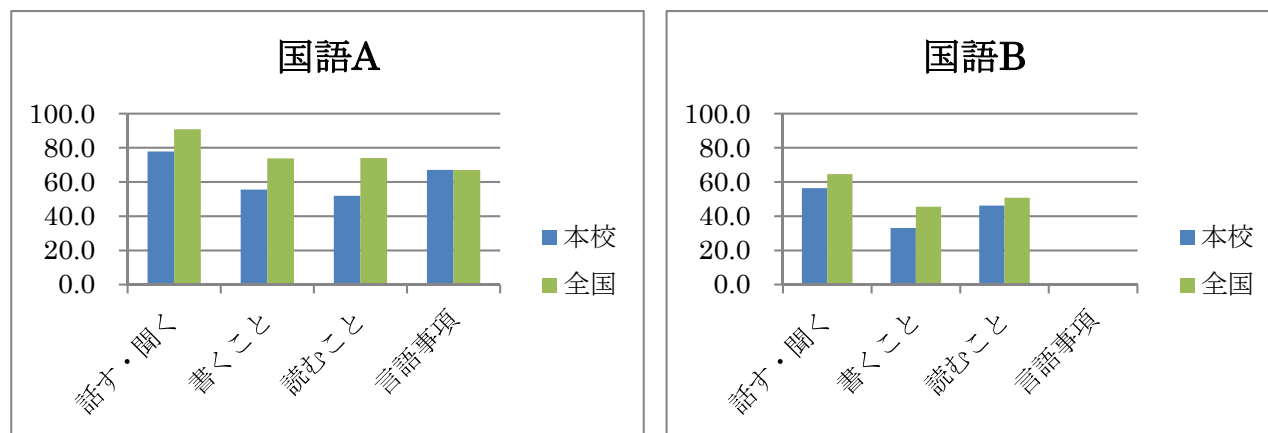
■調査結果及び考察

1 国 語

(1) 結 果

言語事項では全国と同じレベルにあったが、全体では、国語 A、国語 B ともに、全国平均を下回った。活用力をみる国語 B では、読むことでは改善が見られたが、書くことに関する事項で落ち込みがみられる。

全国及び佐賀県の領域別正答率との比較



(2) 課 題

話す・聞く

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題に課題があった。友だちの意見を聞き、自分と比べながら考えを整理したり、互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見を述べたりする力をつけていく必要がある。

書くこと

- ・目的や意図に応じ、内容を明確にして書く問題に課題があった。目的や意図に応じて読み手に分かりやすく伝えるにはどのような構成で書けばよいのか判断する力をつける必要がある。また、条件に合った文章を書く経験を多く積ませる必要がある。

読むこと

- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題の正答率が低かった。長い文章を要約する学習や、物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする必要がある。

言語事項

- ・言語事項については、漢字の読みや慣用句の意味理解の項目では正答率は高かったが、主語述語の関係など文の構成に課題があった。辞書の利用を習慣づけたり、文学的な文を読んだりさせるなどして、語彙を豊かにする取り組みの必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

○朝の「読書タイム」、読書ボランティアによる「読み聞かせ」や「必読図書認定賞」(学年に応じた読破数の授与)、司書や図書委員会による本の紹介など、児童を読書へ誘う活動を継続して行っています。また、朝のスキルタイムで長文読解力を高める問題に取り組ませ、長文にも慣れさせていきます。

○授業では、「学び合いの時間」を設定し、友だちに自分の意見を説明し合うことで言葉の力を高め、学習を深めています。また、総合的な学習の時間に国語科で培った力を発揮する機会を設定することで、教科と実生活を関連づけ、意欲をもって主体的に学習に取り組む力の育成を目指しています。

【家庭では】

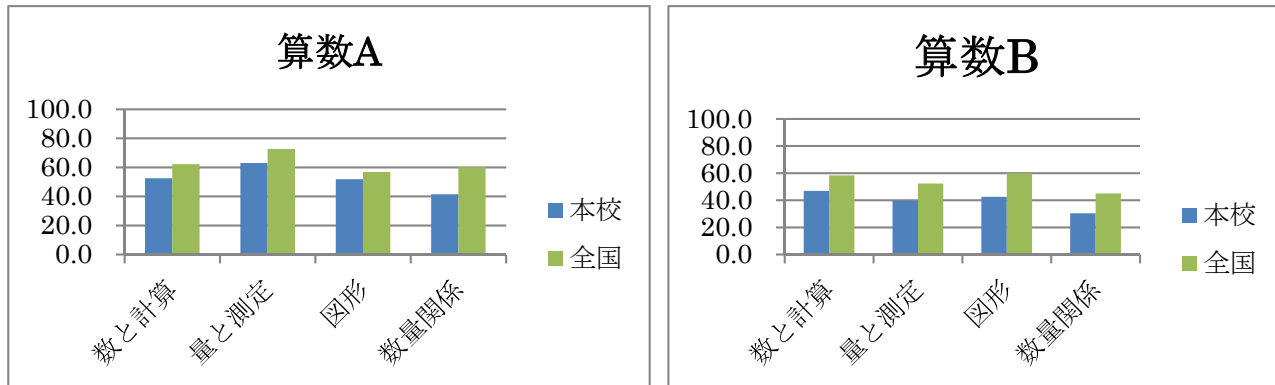
○国語の力は、一朝一夕に身につくものではありません。日常的に、継続的に、楽しみながら取り組むことが大切です。話題を作って家庭での会話を豊かにし、素読タイムの暗唱や音読を聞いて、一言感想を言ってあげたり、一緒に空間で読書をしたり(家読)することが児童の意欲にもつながります。

2 算 数

(1) 結 果

全体的に、全国平均を下回った。算数 A 算数 B 共に数量関係に課題が見られた。複数の観点で示された情報とグラフを関連づけて解釈する問題で、グラフから必要な情報を読み取り、適切に判断することが難しいので、複雑な情報を処理する力や目的に応じて情報を活用する力に課題がある。

全国及び佐賀県の領域別正答率との比較



(2) 課 題

数と計算

- ・除法で表すことができる二つの数量の関係や、1にあたる大きさを求める問題場面で、割る数が1より小さい数でも除法を用いることがあることが理解できていない。単位あたり量の問題と合わせて、小数の除法を繰り返し練習する必要がある。

量と測定

- ・分度器の使い方や直角や直線の角度が 180° などは理解できている。 180° を超える角度を計算で求める問題に課題がある。どの角度を測定すればいいか見通しをもたせ、求める練習が必要である。

図 形

- ・円周と直径に対する割合であることを理解する問題に課題があった。図形の構成要素を基に、図形を判断する問題にも課題があった。単純に公式や性質を覚えるのではなく、構成要素や性質を基に、事柄が成り立つことを説明できるようにする。

数量関係

- ・日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりする問題に課題があった。複数の観点からなるグラフから得たい情報に応じてグラフを選択し、読み取ることなど、複雑な思考を要する問題には、まず、見通しをもたせることが必要。日頃より、条件に応じた情報選択の機会を与えたり、複数の観点から情報を読み取らせたりする課題に取り組ませる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

○算数科の基礎・基本となる四則計算の力が定着するよう反復練習を行うとともに、単元ごとの学習内容の確実な習熟を目指して、学習の後に適応問題を行い、つまづいている子への早めの対応を心がけています。
○問題の見通しを立てさせ、自分で考えた解決の方法をグループや全体で交流するなど、主体的な学びを通して思考力の向上を図っています。さらに、少人数やTTなどの学習形態を取り入れ、児童の理解度に応じた指導を行っています。

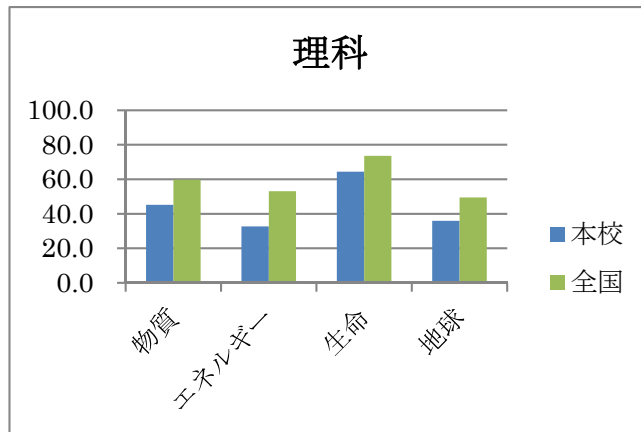
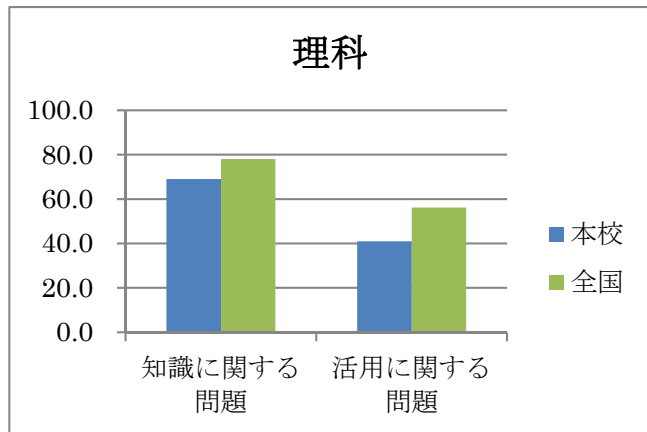
【家庭では】

○基礎・基本の定着には、反復学習が必要です。家庭学習の中でたくさんの称賛や励ましを送り、意欲を高めてください。
○算数好きにするには、生活と関連づけて、算数科の学習が役に立つ体験をすることが大切です。例えば、買い物のときに、見積もりや割合を考えさせたり、グラフや表から情報を得る経験を仕組んだりするなど、日常的に学習した内容を生かせる体験をさせてください。

3 理 科

(1) 結 果

全体的に全国平均を下回った。特に物質、エネルギー関連の内容に課題が見られた。原理的なことは理解していても、それが日常とどのようにつながっているか活用する点で課題がある。また、結果を複数予測して実験計画を組むなど、見通しをもって主体的に活動することにも課題が見られた。



(2) 課 題

物質・エネルギー

・電流の向きを変えるには、電池の向きを変えることは理解しているが、実際のつなぎ方を見て判断することに課題がある。また、問題に対して、自分の予想と異なる他者の予想についても得られる実験結果を見通して、実験を構想できるかどうかをみる問題に課題がある。目的をもって実験を行うとともに、基礎知識や生活体験に基づき、根拠を明確にして説明できる力をつけていく必要がある。

生命・地球

・土地の浸食について自分の予想だけでなく、自分の考えと異なる他者の予想にも結果を見通して実験を構想する問題に課題があった。問題に対して根拠のある予想や仮説を発想する力が必要。課題を自ら立て、どのような実験・観察を通して検証していく活動を仕組む必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

○実験や観察を充実させ、環境の整備を推進します。

○実験では、目的をはっきりさせ、予想を基に「変える条件」と「変えない条件」を考えさせるなど、主体的に実験を計画できるようにします。

○科学的思考を高めるために、まとめでは、実験の結果を基にグループや全体の中での話し合いをさせながら、根拠や理由を示して自分の考えを記述できるようにしていきます。

【家庭では】

○理科の学習では科学的なことに興味関心を持つことが重要です。お子様が科学的な疑問を持った時に、ぜひ一緒に調べたり観察したりすることをお願いします。また、根拠を示して話をすることは科学的思考を高めるにも大切です。お子様との会話を億劫がらずに「どうしてそう思ったの?」と、問いかけてほしいと思います。

■調査結果及び考察

3 生活習慣や学習習慣に関する調査（一部抜粋）

（1）結 果

《児童の特徴について》

調 査 項 目	全国比	本校割合	全国割合
自分には、よいところがある。（どちらかといえばを含む）	↑	92.5%	84%
将来の夢や目標を持っている。（どちらかといえばを含む）	↑	92.6%	85.1%
人の役に立つ人間になりたい。（どちらかといえばを含む）	↑	100%	95.2%

「自分にはよいところがある。」「将来の夢や目標を持っている。」や「人の役に立つ人間になりたい」に9割以上の児童が肯定的に答えた。本校が地域と共に取り組んできた、児童一人一人に出番・役割を与え承認の場面を作ることが、自己肯定感を高める結果となっている。

《生活習慣のようす》

調 査 項 目	全国比	本校割合	全国割合
平日決まった時間に起きる。（どちらかといえばを含む）	↑	92.6%	88.8%
平日決まった時間に寝る。（どちらかといえばを含む）	↑	88.9%	77.0%
朝食を毎日食べる。（どちらかといえばを含む）	↑	100%	94.5%
平日読書を30分以上する。	↑	70.3%	41.1%
平日読書は全くしない～10分未満。	↓	14.8%	33.6%

朝食については、毎日食べている児童が定着しており、全国や県より高かった。毎日同じ時刻に寝起きしている傾向も高いことから、時間の使い方について家庭でよく配慮されていることがうかがわれる。また、30分以上読書をする児童の割合は全国や県に比べて高く、全く読書をしない児童は少なかった。読書への関心の高さがうかがえる。

《家庭学習のようす》

調 査 項 目	全国比	本校割合	全国割合
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。（どちらかといえばを含む）	—	66.6%	67.6%
家で、学校の宿題をしている。	↑	92.6%	87.9%
家で、学校の授業の予習・復習をしている。（どちらかといえばを含む）	—	62.9%	62.6%
普段、1時間以上勉強をしている。	—	66.6%	66.2%

家庭学習の様子を見てみると、昨年度に比べ、平日、1時間以上勉強をしている児童や自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が増えて全国レベルにまで到達した。宿題に対する姿勢も、自主的に復習や予習に取り組む児童が増えてきた。引き続き自主学習などを進めていきたい。

授業では、目標やまとめをきちんとノートに書くなど学習方法が定着してきた。話し合い活動も授業の中で取り入れている。ただ、発言したことをどう生かすかという点では、発表の工夫をさせたり、お互いの意見を交流させたりするなど、話し合いを通してより深い学びにしていけることを意識させる必要がある。

（2）学力向上のための取り組み

【学校では】

○毎日、「音読」「漢字の書き取り」「どきプリやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）については、高学年で取り組んでいます。

○朝の時間を使って、スキル学習（計算や言葉の習熟）や素読タイムでの音読、読書の推奨に取り組んでいます。昨年度の貸出冊数を上回るペースで読書量が増えています。（昨年度約2万2千冊に対し9月末で約1万8千冊、）

【家庭では】

○児童が、何事にも意欲的に取り組むためには、規則正しい生活習慣を身につけさせることがとても大切です。また、自分で学習に取り組む習慣が身につくまでは、目の届く範囲で、家庭学習に取り組ませることも大切です。良い習慣づけを学校と連携して行うため、宿題や連絡帳にサインをしてください。

また、中学校と連携して学期ごとに家庭学習がんばり週間を設けて、家庭学習の充実を図っています。県から家庭学習の手引きが配られています。それを参考にされながら、宿題プラス1を手始めに主体的に学習できるようにお子様への働きかけをお願いいたします。